

9月6日 年間第23主日 マタイ18章15～20節 イエスがともにいる共同体

今日の箇所は共同体における「ゆるし」についての教えです。マタイ18章は教会共同体についての教えが述べられていると考えられます。前にある「見失った羊のたとえ」も社会、そして教会から排除される人がないようにというイエスの教えであと考えることもできるでしょう。なお、来週の福音も「ゆるし」がテーマとなっています。

「兄弟が罪を犯す」とは、教会共同体における出来事を表しています。自分に対する中傷や加害行為ならば、まず本人と話し合いなさいと言われます。人に告げ口をしたり、陰口を叩いたりするのではなく、まずその人に向き合うことが必要だということです。これにはたいへん勇気がいります。当事者に面と向かって話すよりも、第三者に話すほうが楽だからです。けれども面と向き合って話し合うことを求められるのです。

そして二人で話し合っても解決しない場合は一人か二人を連れて話し合うように言われます。それは味方を増やして責めるためではなく、客観的に聞いてもらうためです。そして次によりやく教会に訴えるということですね。ということは、罪を犯した人を排除するためではなく、可能な限り和解を試み、受け入れようとするのが教会共同体であるということです。

そして、訴えられる立場で考えてみましょう。人からあやまちを指摘されるのはつらいものです。人によっては何日も落ち込んでしまうこともあるでしょう。そういうときにこそ相談できる親友が必要です。両方の立場を理解し、客観的に判断してくれる人がいればそれはすばらしいことです。そして、その指摘は共同体から排除するためのものではないという信頼が必要です。いずれにしてもイエスが語られるようなプロセスが行われるためには、その共同体が愛と信頼に基づいていることが求められます。

そのように理想的な共同体をつくることは果たして可能なのでしょうか。そこでイエスは「あなたがたが地上でつなぐことは天上でもつながれる」と言われます。これは先週の福音でペトロに言われたことと同じです。もちろんこれはペトロを代表として教会全体に言われていることばです。天上とは神の国のことであり、神の国は弱い立場の人を中心に誰もが招かれる世界です。その神の国のあり方をこの世において表す使命を受けているのが教会だということです。

イエスは「二人または三人がわたしの名によって集まるところにはわたしもその中にいる」と言われます。これこそ、愛と信頼に基づく共同体をつくるための大きなヒントなのではないでしょうか。もしここにイエスがおられるなら、と考えてみましょう。イエスは何を望まれているか、何を喜ばれるか、何を悲しまれるか。これは自分の望みなのか神の思いにかなう望みなのか。判断は難しいかもしれませんが、常にそのことを意識するようにすれば、イエスが必ず導いてくださいます。

(柳本神父)